

# 加齢黄斑変性についての私の経験

梅田 富雄(化工会)



真夏の暑い日に、テニスをしていたとき、何となくラケットを見たときにガットが曲線に見えて奇妙な感じを受けました。これがきっかけで、市川駅ビル内の眼科クリニックに行き、診察してもらいました。結果は、加齢黄斑変性のような症状なので精密検査を薦められ、順天堂大学病院に紹介状をいただきました。早速出かけたところ、患者の多さにびっくり。日ごろあまり病院と関係がないので、世の中を見直した次第です。朝 9 時過ぎに到着し、検査に始まり、診察を受けるまでに 2 時間半、更に待つこと 30 分、15 分程度の診察、終了しました。

検査の始まりは視力検査、次に瞳孔を開くための点眼、30 分後に断層写真を取り、更に待つこと 1 時間、やっと診察を受け、明らかに加齢黄斑変性で、水が溜まっている様子、角膜との隙間が凸凹であることを断層映像を見せてもらい納得しました。治療として 1 カ月おきに 3 回、目に注射をする処置を受けることになりました。次回に赤外蛍光眼底法による精密検査を行うとのことで、2,3 アレルギーなどの症状が起きるか否かのチェックを受け、処置日の予約を済ましてやっと終了。会計で 30 分ほど待たされ、全て終わったときには 12 時半でした。

精密検査では、事前に静脈注射を受け、続いて蛍光液の注入をしながら眼底の断層映像を撮られました。

手術については、抗 VEGF 療法といわれるもので、以下のようなことです。

事前に細菌による感染を防ぐために、日に 4 回クラビット点眼液を 3 日間点眼しことが求められました。

3 回の治療を受けましたが、いずれも同じやり方で、30 分前に瞳孔を開く注射、その後麻酔向けに 5 分ごとに 4、5 回の点眼後、手術台に座り、抗 VEGF 抗体硝子体注射、5 分程度で終了しました。数時間は瞳孔を開いたままで、外では霞がかっているようで、しかもまぶしい状況が続きました。

終了後 3 日間は、前と同じように、日に 4 回クラビット点眼液を点眼することが求められました。

1 週間後の診察、毎回、視力検査、次に瞳孔を開くための点眼、30 分後に断層写真を取り、

手術の経過は改善しているとのこと、3 回目の診察で視力が元に回復したとのこと、3 月後に再度診察を受けることになっています。(別のあるシンポジウムで聞いたとき、データーが示され、3 回までの手術は、明らかに少しずつ改善、その後はわずかに改善しているような曲線が示された)

以上、経験談でした。

Google で加齢黄斑変性を開くと、結構多数の記事が。「日本眼科学会:目の病気、加齢黄斑変性」が詳しく説明していて大変参考になります。また加齢黄斑ドットコム [www.kareiouhan.com/](http://www.kareiouhan.com/)にはチェック方法や経験者の話など参考になる記事があります。